

平成 25 年度事業報告

平成 24 年 9 月 3 日～平成 25 年 8 月 31 日)

平成 25 年度事業は、当初の事業計画ならびに予算案に基づいて次のように行われた。

1. 会員数

平成 25 年 8 月 31 日現在の会員数は次のとおりである。[専門分野別会員数集計表 () は前年度数]

会員数 (H25.8.31 現在) () は H24.8.31 の数

会員種別	医・歯		理		農・工		薬		他		計	
名誉会員一国内	34	(33)	10	(10)	8	(8)	15	(15)	1	(1)	68	(67)
名誉会員一国外	-		-		-		-		80	(78)	80	(78)
永年会員	4	(5)	4	(4)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	8	(9)
評議員・参与	343	(366)	209	(221)	139	(144)	150	(153)	8	(9)	849	(893)
正会員	1,962	(1,906)	1,845	(1,805)	1,219	(1,197)	1,341	(1,321)	265	(285)	6,632	(6,514)
学生会員	191	(226)	329	(430)	303	(400)	237	(281)	3	(15)	1,063	(1,352)
小計	2,534	(2,536)	2,397	(2,470)	1,669	(1,749)	1,743	(1,770)	357	(388)	8,700	(8,913)
異動数	-2		-73		-80		-27		-31		(前年比)	-213)
賛助会員									92口	(103)	67社	(71)
団体会員											180団体	(189)
総計											8,947	(9,173)
											(前年比)	-226)

H25.8.31 支部別会員数 () は H24.8.31 の数

支部名	会員数(名)		%
北海道	286	(305)	3.3%
東北	521	(521)	6.1%
関東	3,386	(3,400)	39.3%
北陸	216	(223)	2.5%
中部	815	(839)	9.5%
近畿	1,837	(1,964)	21.3%
中国・四国	780	(819)	9.0%
九州	779	(764)	9.0%
計	*8,620	(8,835)	100.0%

註：除・外国人名誉会員

2. 会議

会務運営のために行われた主な会議の開催状況は

以下のとおりである。

定例理事会	4月, 8月	2回
定例常務理事会	11月, 2月, 4月, 6月, 8月	5回
JB 編集委員会	12, 4月	2回
生化学誌企画委員会	12, 6月	2回
男女共同参画推進委員会	5月	1回
各種授賞等選考委員会	6月	1回

3. 研究発表会, 講演会等

(1) 第 85 回大会

日時：平成 24 年 12 月 14 日～16 日

場所：福岡国際会議場、福岡マリンメッセ

会頭：藤木 幸夫

特別講演 2 題, ポスター1,910 題, シンポジウム 48 題、口頭 400 題、バイオインダストリーセミナー12 題、フォーラム 3 題、Late-Breaking Abstracts 51 題

参加登録者：3,781 名

(2) 第 50 回総会

日時：平成 24 年 10 月 29 日

会場：東京ガーデンパレス

(3) 各支部の集会は次のとおりである。

	平成 25 年度	平成 24 年度
北海道支部	1	1
東北支部	1	1
関東支部	1	1
中部支部	1	1
北陸支部	1	1
近畿支部	1	1
中国・四国支部	1	1
九州支部	1	1

各支部における学術活動は活発であり、多くの支部でシ

ンポジウムを開催した。

4. 研究業績の表彰, 奨励

平成 25 年度奨励賞, JB 論文賞, 柿内三郎記念奨励研究賞および柿内三郎記念賞の受賞者は以下のとおりである。

日本生化学会奨励賞

阿部一啓, 末次志郎, 中戸川仁, 田久保圭誉, 金川基

JB 論文賞 (第 22 回)

高木春奈 他 7 名, 遠藤弘史 他 4 名, 三平元 他 10 名, 榊原由紀子 他 6 名, 北村 一 他 10 名, Kanchanamala Withanage 他 8 名, 渡辺瑛美 他 2 名, 日野明紀菜 他 5 名, Luyang Guo 他 4 名, Mohankrishna Dalvoy Vaudevarao 他 3 名

柿内三郎記念奨励研究賞 (第 10 回)

宮本幸, 田口恵子

柿内三郎記念賞 (第 8 回)

本橋ほづみ

5. 会誌等

(1) 会誌発行状況は以下のとおりである。

○生化学

	総ページ	論文数	総説	ミニレビュー	TN	その他
第 84 巻 H24.1~12	1044	114	49	56	9	93
第 85 巻 H25.1~8	735	72	43	29	0	66

*支部編集による特集号は好評を博している。

**編集企画協力委員には非会員の参画も要請し, 幅広い企画の立案に努めている。

○The Journal of Biochemistry

	Pages	No. Paper	Regular P	Commu	Rev/ Minirev.	Ref. & Others
Vol. 151, 152 2012	1,313	143	100	3	24	16
Vol. 153, 154 (Jan. - Aug) 2013	812	83	60	0	18	5

*2012 年の Impact Factor は 2.719 となり対前年比

0.348 ポイント上昇した。

(2) 各月の配布状況は以下のとおり。

	生化学	JB
個人会員	8,620	136
団体会員	180	113
賛助会員	67	67
商社・書店 交換・寄贈・保管等	110	149
計	9,500	1,100

6. 学術集会の企画

平成 25 年度バイオフィロンティアシンポジウム 1 件を決定した。

7. 関連諸会議・学協会との連携および協力

(1) 平成 24 年 11 に Bangkok で開催された FAOBMB に代表を派遣した。

(2) 男女共同参画学協会連絡会, 生物科学学会連合の会員として活動した。

(3) 日本学術会議, 日本学術振興会, 日本医師会, 日本医学会などの調査に協力した。

8. 学術活動の援助

次の 9 件の学術集会を援助し, それぞれ盛会であった。
北海道支部「生化学の歴史と発展を振り返って」(7 月)
東北支部「生体の恒常性維持の分子機構とその破綻がもたらす病態」(5 月)
関東支部「新時代のシグナル伝達研究」(6 月)
中部支部「生命現象を解明する学際的アプローチと生化学研究」(5 月)

近畿支部「生体分子フローの生化学・細胞生物学」(5 月)

中四国支部「最先端酵素学シンポジウム」(5 月)

九州支部「タンパク質構造の働きと機能発現」(5 月)

生化学若い研究者の会「第 53 生命科学夏の学校」(8 月)

第 11 回バイオフィロンティアシンポジウム:

第 12 回国際エンドトキシン自然免疫学会・第 2 回自然炎症国際シンポジウム・第 18 回日本エンドトキシン自然免疫研究会 2012 年 (10 月)

9. 委員会の活動

(1) 情報専門委員会

ホームページを刷新し、facebook を開始した。

2013年（8月）

(2) 男女共同参画推進委員会

第85回大会時にランチョンセミナー「生化学系学生の最近の就職戦線と男女共同参画」を開催した。

(3) 役員等選挙実施委員会

公益法人化後、初めての代議員選挙および理事・監事選挙を実施した。 2013年（5～8月）

○ 尾藤晴彦, 石井昭人, 小柴琢己, 高橋伸一郎